

入選

見て見ぬふり

奈良県 河合第二中学校 2年 岡村 実奈

4年前、夏休みに近所の子と遊ぼうと思い、外へ出かけた。家のインターホンをおしたが、だれも出る様子がなかったので、しかたなくほかの子の家に向かった。向かっている途中に、ベンチに座って泣いている、自分より年下と思える女の子がいた。

まわりに人はいたものの、女の子を気にしている様子はなく通りすぎていってしまい、ついにまわりに人がいなくなってしまった。その道を通りすぎる勇気も話しかける勇気もない私は、遠回りをして友人の家に向かった。

罪悪感におしつぶされそうになりながら友人の家についたが、友人は習い事にいっていて、今はいないと友人の母に言われ、がっかりしながら引き返し、さっきのベンチを見てみると、泣いてはいないがシュンとした様子の女の子がベンチにまだ座っていた。

さすがに、二度も見ないふりはできないと思い、人見知り全開で話しかけてみたが、女の子は自分を見るなりまたワッと泣き出してしまった。「どうかしたの」と聞いてみるが、女の子は泣きやむ様子がなかったので、どうすればいいのかわからず、隣に座り、話してくれるのを待った。

しばらくして、泣きすぎたのかかすれた声で今の状況を教えてくれた。買い物にいっていたが、帰り道の途中で家の鍵をなくしてしまい、両親も夕方まで帰ってこないのどうすることもできず、ベンチに座っていたらしい。

ようやく泣いている理由がわかり、それならなんとかなるかもと妙な自信がわいてきて、「いっしょに探そう」というと、女の子はやっと笑顔を見せてくれた。鍵にはキーホルダーがついているらしいので、すぐに見つかると思っていたが、まったく見つからず、ずいぶん時間がたった。

焦って自分が泣きそうになり、死に物狂いで探していたとき、パトカーを見かけ、近くに交番があったことを思い出し、女の子といっしょにかけこんだ。すると案の定、鍵が届けられており、女の子はとても喜んだ。「ありがとう」と言われたとき、達成感を得たのと同時に、一度見て見ぬふりをしたことに後ろめたさを感じた。

あのときパトカーが通りかかったのは、奇跡だったなとたまに思い出す。そしてずっと覚えていようと思う。自分の小さな力で、「ありがとう」と笑ってくれる人がいるなら、次は見て見ぬふりをせず、精一杯その人の役に立ちたいと思う。